

会 議 録

第3回定例会

開会 平成30年5月11日

教育委員会会議録

1 開 会 平成30年5月11日 午前10時

2 閉 会 平成30年5月11日 午前10時30分

3 教育委員会出席者

教育長	美馬 持仁
委員	松重 和美
委員	辻 貴博
委員	藤本 宗子
委員	小林 信行
委員	河口 雅子

4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	勢井 研
教 育 次 長	青山 佳裕
教 育 次 長	竹内 敏
教 育 創 生 課 長	長町 哲治
学 校 教 育 課 長	藤本 和史
教 育 政 策 課 長	臼杵 一浩
教 育 政 策 課 副 課 長	木下 淳子

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

《報告事項1 城西高校神山分校の活性化について》

教育長 報告を求める。

教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

松重委員：新しく、魅力的な内容である。いかに広報するかが重要で、県内外からも来てほしいが、寮はあるのか。

教育創生課長：寮はない。町による協力の話ではあるが、空き家を活用する案などについて検討していると伺っている。

松重委員：寮に現実性があり、受入体制が整えば、県外からも入学できるのではないか。特に神山は、サテライトオフィスなどでも注目されており、徳島県の教育として県外へもアピールしていけばよい。また、広報では、中学生にイメージが湧くような工夫を行い、卒業後、どのような進路につながるかについても含めてもらいたい。

教育長：学習内容をより具体的にわかりやすく広報を行い、町との話し合いを進めながら、どのような受入体制ができるか、もう少し詰めていく必要がある。

辻委員：造園業が従来の松を植え、築山があるといったものだけではなく、都心のビル開発では、必ず緑が重要な位置を占めており、そういった内容も学ぶことができるというイメージを盛り込んでいくべきである。

教育長：神山分校は、地元の造園業が盛んであったことから設置された学校である。盆栽、木の刈り込みだけではなく、都市計画の中での造園であるガーデニン

グ、都市緑化等を広く学べるようにし、神山の方にも御協力をいただきながら、地域と密着していくことを進めてもらいたい。

辻委員：GAPへの取組を前面に出していくことが魅力化につながる。

教育長：国際的なGAPへと進める必要があり、ハードルは高いが一段一段進めていくことが大事である。

松重委員：これらの内容を教える先生は、誰になるのか。

教育創生課長：教員がスキルアップして教えていくことになる。また、外部の講師なども積極的に活用していきたい。

教育長：地域の人材を活用していくということなのか。

教育創生課長：特に神山創造学では、地域のふるさと創生に携わっている方、神山で先進的な取組を行っている方々等、積極的に地域の人を活用して進めていきたい。

松重委員：教える先生方には、いろんな面での研修をしていただき、新しい魅力を教えられるように、先生方の教育にも配慮してもらいたい。

藤本委員：県教育委員会のスピード感をもった取組が、中学校の先生方、市町村教育委員会の隅々まで伝わっていないようである。外だけでなく、内に向かっての細やかな広報もしていただきたい。

河口委員：神山分校としての従来のイメージがかなり変わり、すばらしい内容なので、中学校への発信をしっかりと行ってもらいたい。

教育創生課長：入試要項、パンフレット等でしっかりとPRしていきたい。

藤本委員：それだけでは不十分である。文章だけではわかりにくく、具体的に新たに力を入れている内容等についても説明が必要である。

河口委員：受入体制について、中学校や市町村との連携を図り、もっと発信していくことで、PRができると思う。

青山教育次長：新しい学科設置の際には、管区別小・中学校長会などの場で、パンフレットを配布し、説明することで、周知することに努めている。中学校の先生方に伝わっている感覚はあるが、市町村教育委員会まで伝えられているかどうかはわからない。中学校へは、できる限りPRを行いたい。

藤本委員：校長先生から必ず、3年生担当の先生方にお伝えしていただけるように、お願いしたい。

松重委員：中学生のわくわく感を喚起するアピールが必要であり、マスコットキャラクターを作るなど、今まであるものにプラスを考えていただきたい。

竹内教育次長：中学3年生の進路学習において、ホームページの検索を活用している。中学生にもわかりやすい表現とすることで、より深く調べることがで

きると思う。

小林委員：ホームページ等の活用は、大事な広報手段ではあるが、中学生はわかっても、保護者はわかってないことも多い。ここは報道関係に大きく取り上げていただきたい。

教育長：我々が普通に使っている言葉が、一般の県民の皆さま、特に15歳の子どもには難しいこともあるので、解説もしながらこれを機に伝えていくことをしなければならぬ。

小林委員：徳島大学生物資源産業学部、県立農業大学校へのキャリアパスとあるが、どこまでのキャリアパスを考えているのか。推薦も含んでいるのか。

教育創生課長：生物資源産業学部には本県の農業科、工業科、商業科、総合学科を対象とした地域枠があり、神山分校からも入学しており、高校での学びを更に深めていくことになる。

小林委員：キャリアパスについても積極的にアピールしていただきたい。

教育長：農業科、工業科、商業科、総合学科での競合もあり、推薦で必ず入学できるものではない。しかし、専門高校の活性化を進める中で、ローテクを学び、より学びの意識のある子がハイテクを学びに行くという、新しいキャリアパスがあってもいいのではないかとの考えから、徳島大学生物資源産業学部への進学を勧めている。神山分校に限らず、最大限にこの地域枠を生かし、専門高校すべてを活性化していきたい。もちろん、高校卒業後、就職して地方創生を担う子を育成することも大事なことであり、向上心がある子に、大学進学への選択肢もあるということを、しっかりとPRしていかなければいけない。

《報告事項2 平成30年度全国学力・学習状況調査について》

教育長 報告を求める。

教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

辻委員：この実施校の中に鳴門教育大学附属小・中学校は含まれているのか。

学校教育課長：鳴門教育大学附属小・中学校でも実施はされているが、今回の報告の中の実施状況は公立の小・中のため、含まれていない。

松重委員：今後、主体性など学力についての捉え方も大きく変わることが予想される。その状況を考えると本県としても、学力を含め教育全体に対する考え方を

変えていかなければいけないのではないか。

学校教育課長：県としては計画訪問を実施し、「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブラーニングを各校で推進して行くための支援を実施していく。

松重委員：主体的な取組、多様性などを積極的に評価していくことが大切になってくるのではないか。

教育長：数値で測れない部分をどのように評価していくかということが大切だと考えている。

河口委員：7月末に結果公表されるということで、各校において結果の検証や授業改善に十分時間をかけることができるのは意味のあることだと考えている。学力調査問題を全教員が解いている学校もあり、有効である。本県では、各校において学力向上を担当する教師がおり、その教師が中心となって実践を進めているのか。

学校教育課長：学力向上推進員が中心となって、進めている。

河口委員：本県の学力について、さらに検証していくことが大切なのではないか。

教育長：全国学力調査の結果についても向上しつつあり、総合教育センターとも連携し、さらに検証をしていく。

河口委員：学力調査以外にも本県独自の学力調査があるが、それはどのようなものか。

学校教育課長：徳島県学カステップアップテストを実施している。実施対象学年は、小学校第4学年、第5学年、中学校第1学年、第2学年となっている。全国調査と合わせて、授業改善の検証のため今年度より学力向上確認プリントも活用することになっている。

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午前10時30分